

スポーツ文化の風を発信する

NITTAIDAI

ニッタイダイ 2003年 秋

07

CONTENTS

特集1 ■ 対談 [学長vs北島] — 1

世界水泳の2種目で世界新記録を樹立!!

特集2 ■ 世界殿堂入り — 3

体操・バレーの世界殿堂入りした本学の4教授紹介

特集3 ■ 実演会 — 7

今年度のプログラム、過去のデータ

特報 ■ ユニバーシアード — 17

参加した本学関係者一覧及び成績

INTERVIEW ● アスリートたち — 9

Active People ● 社会の第一線で活躍するOB・OG — 11

大学院の紹介 ● 3系の最新ニュース&レポート — 13

NEWS ● 03上半期ニュース — 15

クラブ情報 ● 03上半期 クラブの主な大会成績 — 18

INFORMATION ● dot. NITTAIDAI — 19





世界水泳選手権で 2つの世界新記録を樹立!!

「アテネ五輪の表彰台を見据えた新たな挑戦の始まり」

本年7月にスペイン・バルセロナで開催された第10回世界水泳選手権において、北島康介君(体育学部3年)は100mおよび200m平泳ぎの2種目で世界新記録をマークし2冠を達成した。2種目で世界新記録を出した選手は、70年代に活躍したヘンケン(米国)以来であり、日本選手として大会史上初めての金メダルである。日本中を湧かせたあの興奮から2ヶ月半、10月10日長谷川正明学長と北島康介君の対談が行われた。

バルセロナ世界大会を 振り返って

学長…世界大会での世界新記録の樹立と初優勝、おめでとう。すばらしいレースに感動しました。あの大会にはという目標をもつて臨んだのですか。

北島…昨年のアジア大会からこの世界選手権に一番重点を置いてトレーニングしてきたのですが、五輪と違い、金メダルを取りにいくだけではつまらないということで、自分の記録更新と金メダルを取ることの2つを目標に置いていました。それが世界新で両方達成でき、すごく満足しています。

学長…アジア大会では唯一人のMVPに選ばれ、暮れにお祝いの会をやったのを思い出すが、あの時は100mは世界記録を出せず、200メートルで2分10秒を切る10年ぶりの世界新記録を出したんですよね。

北島…やはり、アジア大会で世界記録を出せたことが一番大きな自信になりましたね。それがなかったら、本当に自信を持って世界の選手と闘うことは難しかったろう、と思います。

学長…NHKで君を集めている番組を見ただけで、新記録を樹立するために、平井コーチを中心に専門領域の違う人たちが知恵と情熱を結集して君を支えたいですね。

北島…そうですね、記録の科学的解析や栄養・体調維持などについて、周りのスタッフが昨年以上に自分のことをよく見てアドバイスしてくれたのが、今回結果を残せた一番の要因だと思います。

アテネ五輪に向けて

学長…今度はチャレンジャーから頂点に立つわけですが、何か変わりましたか？

北島…“これからは追われる立場だ”と言われますが、頂点に立ったという意識はないです。やはり、来年のアテネ五輪での金メダル獲得が一番大きな目標ですし、僕の中ではまだまだ記録面でチャレンジしたい部分が多いので、追われるということ意識せず、あくまでも自分の力を出し切るつもりでやっていきたいと思っています。

学長…世界大会の後、暫く休養してましたが、来年に向けての始動と調整法は？



北島康介

PROFILE

●きたじま・こうすけ●
1982年東京生まれ。私立本郷高校出身。体育学科3年。水泳部・東京SC所属。スポーツ局重点強化選手。身長176cm、体重68kg
成績●10歳でジュニアオリンピック50m平泳ぎ優勝。中学3年の時、全国中学校選抜において100m・200m平泳ぎの2種目を制して頭角を現す。高校1年・2年の時、インターハイ連続優勝(100m)。高校3年の日本選手権では100m平泳ぎ優勝(日本新)。シドニー五輪では100m平泳ぎで惜しくもメダルを逃したものの、男子競泳の日本選手では最高位の4位入賞を果たした。また、本年世界選手権バルセロナ大会では、100m(59秒78)・200m(2分9秒42)平泳ぎで世界新で初優勝を果たし、世界の頂点に立つ。

北島…9月から練習に入りました。アテネ五輪の開幕日・8月14日を基準に調整を組んできますが、今年が一番大事な年なのでトレーニングを充分することに重点を置き、海外でのトレーニングでスタミナアップと筋力アップを図るつもりです。

学長…そうしたトレーニングや試合と学業とを両立させていくのは、本当に大変だと思うが、どうですか？

北島…海外で水泳に没頭している時は、水泳しか見えていないのですが、普段日本で練習している時は、やはり学業のことを考えてしまいます。本当に両立できているのか、自分でも不安な部分はあります。

学長…君の場合は、一般学生にはない国民的な期待や課題を背負ってやっているので大変だと思う。そうしたことから、トップアスリートが海外試合と学業が両立できるよう、大学でも総力を上げてバックアップしています。ぜひ頑張つて、卒業して下さい。そして将来は、水泳界、できれば日体大を背負って立つ人材の一人になつてくれることを期待しています。

(赤坂プリンスホテル「紅葉の間」にて談)



「北島康介君世界新記録樹立を祝う会」開催

10月10日(金)、世界水泳選手権での活躍で日本中を興奮の渦に巻き込んだ、北島康介君(体育学科3年)の世界新記録樹立を祝う会が赤坂プリンスホテル「五色の間」において開催され(スポーツ局・校友会水泳部の共催)、338名が参列しその快挙を祝福した。

長谷川学長の挨拶、ご来賓の祝辞の後、今年3月に本学で創設された「特別学長賞」(スポーツ・学術・社会活動・国際交流等において功績のあった学生を表彰することを目的とする)が、記念すべき第1号として北島君に授与された。

この後、北島君からお礼の挨拶と来年のアテネオリンピックに向けての抱負が述べられ、ご両親並びに平井伯昌コーチに花束が贈られた。また、世界水泳に出場した本学関係者も紹介された。

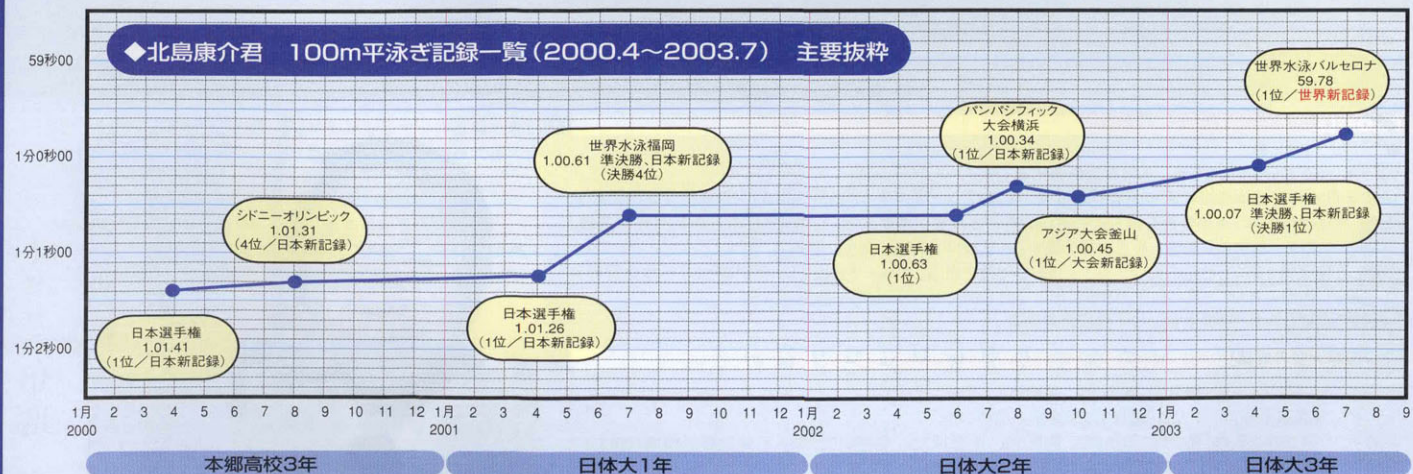
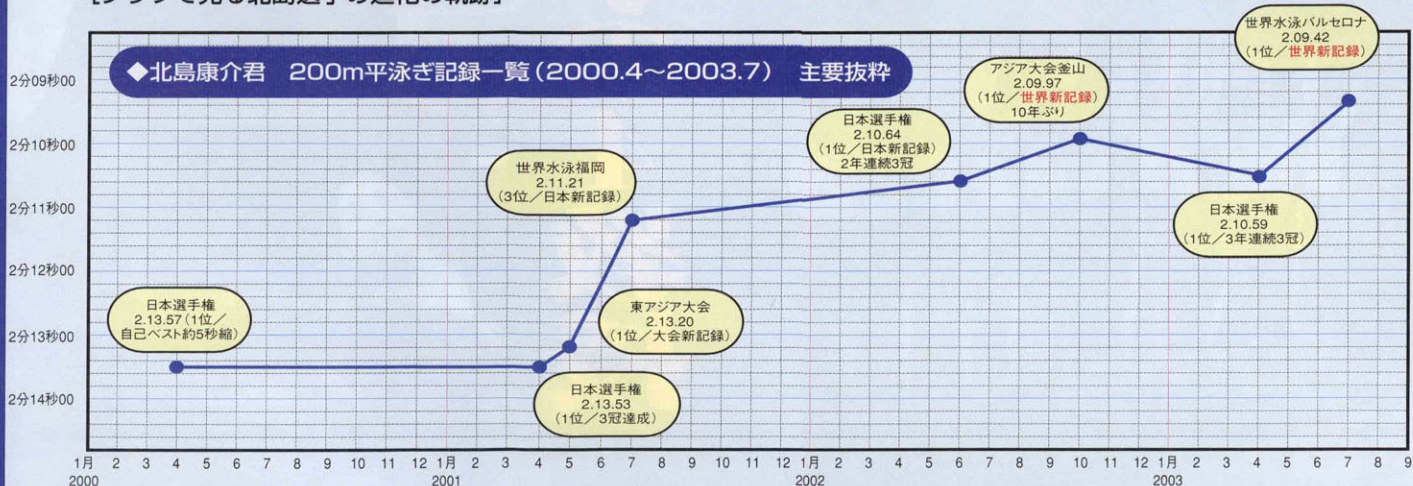


※世界水泳に出場した選手:写真左から●藤丸真世(シンクロナイズドスイミング団体金メダル/H14年卒業)●西井亮子(3m飛板飛込/スポーツ局職員)●中村礼子(100m背泳ぎ/3年)●水球女子チーム:加超 綾(4年)、矢作 美香(2年)、吉岡 真智(2年)●水球男子チーム:小林浩司(3年)、長沼 敦(3年)、堀田義法(3年)

特別学長賞第1号記念品
(クリスタルトロフィー)



[グラフで見る北島選手の進化的軌跡]



■北島選手の成績 [ホルダー記録] ●50m平泳ぎ(27秒99日本記録) ●100m平泳ぎ(59秒78世界記録) ●200m(2分9秒42世界記録)
短水路 ●50m平泳ぎ(27秒31日本記録) ●100m平泳ぎ(58秒51日本記録) ●200m(2分6秒00日本記録)

[国際大会でのメダル獲得数] ●金メダル:2(100m平泳ぎ/200m平泳ぎ) ●銀メダル:1(短水路100m平泳ぎ) ●銅メダル:1(200m平泳ぎ)



国を超えてスポーツの発展に
顕著な貢献した人を永久に讃え
る「世界殿堂入り」。

既に本学では、竹本正男名誉教
授・松田治廣教授・池田敬子教授
の3教授が世界の体操界への貢献
が認められ「国際体操殿堂入り」
を果たしているが、本年6月、森
田淳悟教授が世界のバレーボール
界における顕著な活躍が評価さ
れ、「バレー殿堂入り」に決まった。
昨年の池田教授に引き続く、本学
4人目の殿堂入りである。

この機会に、体操・バレーボール
の「世界殿堂入り」を紹介したい。

「世界殿堂入り」の 栄誉に輝く本学の4教授

「スポーツの発展に尽くしたパイオニアたち」



PROFILE

●たけもと・まさお●

1919年(大正8)9月29日生まれ。島根県浜田市出身。

1940年日本体育会体操学校高等師範科卒業後、同年4月同校助手として勤務。46年4月日本体育専門学校助教授。本郷学園中学・高等学校教諭を経て、51年4月日本体育大学助教授。62年4月教授、90年3月定年退職。この間、学部長、副学長を歴任。客員教授を経て、91年4月より現職、現在に至る。

戦後、五輪復帰を果たした初の大会ヘルシンキから40歳で出場したローマ五輪まで、牽引車として日本体操界を引っ張り、「体操の神様」と言われた。日本人としてはじめて1997年国際体操殿堂入り。

54年第1回朝日スポーツ賞受賞、80年紫綬褒章受賞。

【主な国際大会の成績】

1952年 ヘルシンキ五輪[種目別:跳馬2位、吊輪6位/団体:2位]

1954年 世界選手権ローマ大会[種目別:床優勝/団体:2位]

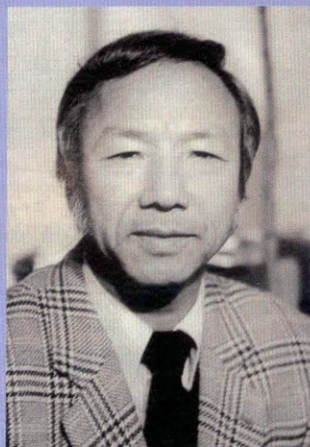
1956年 メルボルン五輪[種目別:吊輪3位、跳馬6位、平行棒3位、鉄棒3位/個人総合:4位/団体:2位]

1958年 世界選手権モスクワ大会[種目別:床優勝/団体:2位]

1960年 ローマ五輪[種目別:鉄棒2位、平行棒6位/個人総合:5位/団体:優勝]

※世界選手権・五輪でのメダル獲得数:12個(金3、銀6、銅3)

●他に、全日本選手権個人総合で7回優勝、内5回連続優勝の記録をもつ。



1997年度
国際体操殿堂入り
日本人初
竹本正男 名誉教授

2000年度 国際体操殿堂入り

松田治廣 教授

「山下跳び」・「新山下跳び」の完成が評価され、日体大では竹本先生に次ぐ二人目の体操殿堂入り。

1962年、世界選手権（ブラハ）において松田（旧姓・山下）教授は、前転跳びしかなくつた跳馬に前転跳びに屈伸を組み込んだ「山下跳び」を発表、銀メダルを獲得した。さらに2年後の東京五輪ではひねりを加えた「新山下跳び」を披露し、金メダルを獲得した。この「山下跳び」は、今では世界の体操競技の採点規則に基本技として紹介されているほど普及した跳び方である。

2000年6月、松田教授は「山下跳び」と「新山下跳び」による体操の発展に尽くした功績により体操殿堂入りをした。日本人選手としては竹本正男・小野喬・遠藤幸に次いで4人目。日体大では2人目の殿堂入りとなる。評価の決め手となった「山下跳び・新山下跳び」誕生の秘話などを中心に、選手時代の話をお聞きした。



「新山下跳び」の誕生秘話と殿堂入りの感想

当時の跳馬は、「前方倒立回転跳び」といって、走ってきて倒立して前に倒れるだけでした。「山下跳び」を発見したのは、大学の練習場で面白い跳び方をしていた後輩がヒントでした。面白そうだなと思い、自分も試してみたところ、上手く跳べたのです。それで、最初、50cm位の距離で跳んでいた踏切板を2m位に離して跳ぶなど、試合

用にどんどん改良していきました。その結果、大きく入っていつてグリーンと高く跳び上がって体を伸ばして降りるので、反動でもっと遠くへ跳べるようになったのです。

それが前転跳びに屈伸を組み込んだ「山下跳び」です。ネーミングは、ヨーロッパ遠征の折、この跳び方を見たFIG技術委員のスピーチが面白い演技だということで、技術委員会に提出してくれ、「山下サルトル」の呼称が付いたからです。

この跳び方で1962年の世界選手権は

銀メダルを獲得できました。しかし、東京五輪で金メダルを取るには同じ演技をしても、私より身体的条件の良い人はもっとすごい「山下跳び」で跳んで来ると思い、更に改良しました。後半に身体を伸ばして、1回ひねりを加えることにしたのです。いわゆる「新山下跳び」です。

しかし、今こそ「ひねりの3原則」がきちんと分析されていますが、当時は何もなく、ひねりのキッカケが難しかった。発見したのは、トランポリンで軽くウォーミングアップしながら背中から立ち上がった時です。「空中感覚で背中から落ちて、立ち上がる時に1回ひねれば良い」と気づいたのです。で、やってみると、いつも付いて見えてくれた竹本先生が「上で腕を回していたぞ」と言う。それから腕を回すようにしたので、それは「ひねりの3原則」の一つを自然に行っていたのです。

オクラホマでの殿堂入りのセレモニーでは、そんな「新山下跳び」の出来るまでの苦労について10分間程スピーチしました。出席した約300人の聴衆全員が皆スタンディングオベーションで祝福してくれ、すごく嬉しかったですね。

当時、旧体育館は午後4時10分～8時まで使用でしたが、体操競技・バスケット・ハンドボール・徒手体操の4部が利用するため、各クラブは一日1時間15分だけしか練習できませんでした。だから、体育館は420人の部員で芋の子を洗うよう。みんな争って練習したものです。東京五輪が近づいた頃は、まだ「新山下跳び」のできる確率は60%位。何としても自分の創った「新山下跳び」を披露したくて、グラウンドに砂場を作り、各器具を設置し、体育館で足りない練習量を補うなど、とにかく猛練習しました。

学生時代の思い出

（10月7日、横浜・健志台キャンパスにて）



PROFILE

●まつだ・はるひろ●旧姓山下

1938年（昭和13）11月15日生まれ。愛媛県宇和島市出身。宇和島東高等学校から57年日本体育大学入学。61年同大卒業後、同年4月同大学助手として勤務。専任講師、助教授を経て、79年4月より現職、現在に至る。この間、76年モントリオール五輪大会に女子コーチ兼日本選手団総務として出場、90年アジア競技北京大会には体操競技日本代表監督として出場する。98年4月より同学大学院体育科学研究科博士前期課程教授。99年紫綬褒章受章。2000年宇和島市名誉市民称号授与。＜主著＞『男子体操競技』（成美堂出版）、『図解コーチ体操競技・女子』（成美堂出版）、『日本体育・スポーツ教育体系』（教育出版センター）

【主な国際大会の成績】

1962年	世界選手権ブラハ大会〔種目別：跳馬2位／個人総合：7位／団体：優勝〕
1964年	東京五輪〔種目別：跳馬優勝、あん馬4位／個人総合：6位／団体：優勝〕
1966年	世界選手権ドルトムント大会〔種目別：跳馬優勝／個人総合：13位／団体：優勝〕
1967年	ブレメキシコ五輪〔種目別：跳馬優勝／団体：優勝〕

※世界選手権・五輪でのメダル獲得数：8個（金7、銀1）

2002年度 国際体操殿堂入り

池田敬子 教授

平均台上での世界初の1回半スピンの評価され、日本人女性として初の体操殿堂入り。

体操・日本の夜明けとなったヘルシンキ五輪から2年後の1954年、日本は初めて世界選手権（ローマ）に参加し、竹本正男―池田敬子の師弟が、それぞれ種目別床と平均台で優勝を果たした。日本代表の世界的舞台における金メダル第一号であった。特に、池田教授の平均台上での1回半スピンは称賛され、世界の平均台の方向性を変えるほどの演技だった。以後、池田教授は総合で銅メダルを獲得する最後の世界選手権となる33歳まで、12年間にわたって世界をリードする。

ローマ大会での金メダルと体操界への功績が評価され、2002年、池田教授は米国オクラホマにある体操殿堂に日本人女性として初めて入った。評価の決め手となった平均台上での「1回半スピン」誕生の秘話などを中心に、選手時代の話をお聞きした。



当時の思い出と 殿堂入りの感想

1954年の世界選手権は、日本は初参加で海外からの情報もなく、苦勞したのを覚えています。規定問題は自分たちで文書を解釈して試合に臨んだものの、現地に行き他国の練習を見たら、解釈が全然違うのです。試合の前日でした。しかし、親切的なハンガリーの女子選手が朝方の4時まで付き合ってくれ、何とか間に合いました。

した。彼女がいなければ、個人総合8位・平均台優勝の成績は残せなかったでしょう。それと、平均台で金が取れた直接の理由は、実は1回半スピンするところを1回半廻つてしまつたからなんです。当時、外国選手は半分廻るのがやつとでした。私にすればバレーで鍛えたスピンと大きなジャンプを平均台の上でやっただけなのですが。以来、この2つは自



PROFILE

●いけだ・けいこ●旧姓田中

1933年（昭和8）11月11日生まれ。広島県三原市出身。

県立三原高等学校から1952年日本体育大学入学。56年同大卒業後、同大学助手として勤務、専任講師、助教授を経て、1978年4月より現職、現在に至る。2003年4月より副学長に就任。

1954年の第1回朝日スポーツ賞をはじめとして、日本体操協会栄光賞・功労賞、横浜文化賞、エイボン賞など数多くの賞を受賞。2003年三原市名誉市民称号授与。

現在、（財）日本体操協会理事、全日本ジュニア体操クラブ連盟専務理事、神奈川県スポーツ振興審議会委員、横浜市生涯学習推進委員など多くの公職に就くとともに、自ら池田健康指導協会を主宰する。現役選手時代にFIG公認女子体操競技審判員を取得。

<主著>『幼児の体操』、『健康学入門』、『バレーボール（全6巻）』、『図解コーチ体操競技』、『間違いだらけのスポーツ健康法』他

【主な国際大会の成績】

1954年	世界選手権ローマ大会[種目別：平均台優勝]
1956年	メルボルン五輪[種目別：床4位／団体：6位]
1958年	世界選手権モスクワ大会[種目別：床3位]
1960年	ローマ五輪[種目別：平行棒5位、平均台5位／個人総合：6位／団体4位]
1962年	世界選手権プラハ大会[種目別：平均台3位／個人総合：3位／団体：3位]
1964年	東京五輪[種目別：平均台6位／個人総合：6位／団体：3位]
1966年	世界選手権ドルトムント大会[種目別：平行棒2位、平均台4位／個人総合：3位／団体3位]

※世界選手権・五輪でのメダル獲得数：7個（金1、銀1、銅5）

●他に、全日本選手権個人総合で10回優勝の記録をもつ（内4回連続優勝）

体操を始めたきっかけと 五輪の思い出

高校入学まで、器械体操そのものさへ知りませんでした。だから、初めて平均台を

由問題の中に入らなければ減点の対象となるようになりました。初出場で世界の平均台の方向性を変えた功績は、自分でも大きかったかな、と思います。また、現役引退後、世界のジュニアを育てるために、この20年間、隔年で国際ジュニア大会を開催しています。この大会は五輪や世界に出るジュニアの登竜門になっており、FIGのカレンダーにも開催日が記されているほどです。2003世界選手権金メダリストの鹿島選手もここから育った一人です。ローマでの金メダルだけでなく、このように国内外の体操選手を育てていることも併せて殿堂入りの対象になったのかなと、私は解釈しています。

体験した時は、「これは私が命がけでやってほしいものだ」と、その晩は眠れないほど興奮したものでした。高校1年でインターハイに初出場し、優勝。以後、3年間ナンバードワンで、高校3年の時はヘルシンキ五輪の候補者にも選ばれました（結果は男子だけの参加）。体操を始めて3年の高校生が選ばれるのは異例ですが、おてんばで、小さい頃から海で泳ぎ、高いところが好きで山を駆けめぐり、また、バレーリーナを目指して10年以上クラシックバレエをやってきた経験がミックスされて体操に効果が現れた、と思うのです。

（10月8日、横浜・健志台キャンパスにて）

2003年度 世界バレーボール殿堂入り

森田淳悟 教授

「二人時間差攻撃」の考案により、日本人男子選手として初のバレー殿堂入り。

1972年のミュンヘン五輪は、日本男子バレーが金メダルを獲得した唯一の大会である。その獲得に貢献したのが、森田教授が考案したオトリとスパイカーの二役をこなす「二人時間差攻撃」であった。その影響力は大きく、ミュンヘン以降、世界はセッターとの連携を重視するコンビネーションバレーの時代に入っていく。今回、その考案と時代の礎を築いた功績により、バレーボール発祥の地・米国マサチューセッツ州ホリヨークにあるバレー殿堂入りが決まった。

日本人としては、松平康隆・大松博文(故人)・白井(現姓・高木)貴子に次いで4人目。男子選手としては、日本人初の殿堂入りとなる。評価の決め手となった「二人時間差攻撃」の秘話について、お聞きした。



「二人時間差攻撃」誕生の秘話

「二人時間差攻撃」は、偶然の失敗から生まれたとも言えます。メキシコ五輪が終わった大学3年の秋でした。当時の全日本監督・松平さんから「ミュンヘンに向けて、何でもいから6人制のオリジナルを考えろ」と言われていたのと、何かブロックを分散させる方法はないのか、この2つのことが常に頭の中にありました。深沢の体育館で練習中、クイックに入った時、偶然セッターが

トスのタイミングをずれて上げてしまい、仕方なくそれを打ったところブロックがなかったんです。これだ！とヒラメキ、さらにバスケット風にフェイントモーションを入れて再度試してみたところ、本当にブロックがなかった。で、その場だけでは戦法がばれるので、Aに入ってセッターの後ろに廻る／Bに入ってセッターの前に出る／Cクイック(セッターの後ろ側に入る)に入ってセッターの前に廻る／



PROFILE

●もりた・じゅんご●

1947年(昭和22)8月9日生まれ。北海道北見市出身。
東京・日大鶴ヶ丘高校からバレーを始め、1966年日本体育大学入学後、頭角を現す。日体大初のインカレ優勝に貢献するとともに、1年から全日本に代表入りしセンターとして国際大会で活躍。68年メキシコ五輪で銀メダルを獲得。
70年同大卒業後、日本鋼管入社(現JFE)。80年日本鋼管退社後、81年4月本学に戻り、助教を経て現職、現在に至る。
選手時代(現Vリーグ)はベスト6賞9年連続9回受賞に輝くとともに、文部省スポーツ功労賞・日本バレーボール協会年間最優秀選手賞、世界選手権ベスト6賞、内閣総理大臣銀盃、読売スポーツ賞など、数多くの賞を受賞。現在、日本オリンピック委員会強化本部常任委員、東京都スポーツ振興審査委員、日本バレーボール協会理事・男子強化委員長、全日本大学強化委員長。
＜主著＞『はじめてのバレーボール』(ナツメ社)、『イラストバレーボール』(五月書房)、『ニュースポーツルール』(一橋出版)、『アスレチックトレーニングの実態』(南江堂)、他

【主な国際大会の成績】

1966年	イタリア国際招待大会(アキウラ)優勝／第6回世界選手権(ブラハ)5位
1967年	ルーマニア国際招待大会(グルージ)4位
1968年	メキシコ五輪2位
1969年	第2回ワールドカップ(東ベルリン)2位
1970年	第8回NHK杯優勝／第7回世界選手権(ソフィア)3位
1971年	ソウル国際招待大会優勝／オランダ国際大会(ティルブック)優勝／ミュンヘン国際スポーツ大会2位
1972年	ミュンヘン五輪優勝
1977年	第3回ワールドカップ(日本)2位
1978年	サビン記念国際大会7位／第9回世界選手権(ローマ)11位

※世界選手権・五輪でのメダル獲得数:3個(金1、銀1、銅1)

Cクイックに入ってアンテナ側に行くD／その場でやる、の5つの時間差攻撃を20分ぐらいで創ったのです。
それを全日本の練習でも試したら、やはりブロックは全然ノーマークでした。それを見た松平さんは、「お前、すごい創ったな！俺が使えというまで、外国選手の前では絶対見せるな」と言われ、使用許可が下りたのは五輪2年前の世界選手権(ソフィア)の決勝リーグでした。面白いように決まり、その大会でベスト6プレイヤー賞にも選ばれました。
これは、当時日体大が僕のワンマンチームだったからこそ出来たと言えます。他大学ではスパイカーが揃っているの自分勝手なことはできず、生まれなかったでしょう。だから、日体大が創った技とも言えますね。
このネーミングは松平さんです。ミュンヘン後、各国のチームでも使いたし普及した

ので、「失敗したな。体操のように『森田スパイク』と名付ければ良かったな』と言ってくれましたが、ロシアでは今でも『モリタ』と呼んでいますし、何より今回、56歳の若さで殿堂入りできたことは光栄です。

学生時代の思い出

大学1年の夏から全日本入りしていたので、年中、強化合宿・大会に追われ、授業に出席できなかった。でも、当時は大目に見ていただいた部分もあり、そういう環境がなければ、金メダルは取れなかったと思います。正直、五輪を目指す選手は、授業と競技の両立はかなり厳しいと思います。授業の問題をはじめとして、休学・復学制度などは、今後、競技力の強化を目指す上で早急に解決しなくてはならないと思います。

(9月30日、横浜・健志台キャンパスにて)

特集

3

実演会

第46回体育研究発表実演会が開催される。観る者と演ずる者の垣根を取り払い、まさに会場が一体となって感動を共有しながら半世紀、日体大の息吹を伝え、今を伝えてきたのである。

なぜ人々は感動するのか。肉体が紅潮し、筋肉が波打つ。木の葉のように宙を舞い、何かを共有する集団が個々の輪郭を誇示しながら、拡散し、収束し、統一に向かう「離合集散」のダイナミズム。観る者は、その一つ一つの動きに肉体の自由の拡がりを感じとり、演ずる者は確信する。

今年のテーマは「きらめき」その瞬間。第1回の体育研究発表実演会も1954年9月26日の「きらめき」その瞬間「だったのか」かもしれない。46回の営みは、瞬間、瞬間の連鎖の軌跡である。



回数	期 日	会 場	演 技 種 目
25	S55.11.1	東京体育館	創作ダンス、体操、体操競技、エッサッサ、フォークダンス、ハンドボール、バスケットボール、集団行動、幼児遊び、バレーボール、少林寺拳法、合気道、スタッツ(組体操)、サッカー、ラグビー
26	S56.10.31	駒沢オリンピック公園体育館	創作ダンス、体操、体操競技、エッサッサ、フォークダンス、ハンドボール、集団行動、柔道、幼児遊び
地方	S56.12.17	福岡市民体育館、18熊本県立体育館、19鹿児島県立体育館、21広島県立体育館	
27	S57.11.12	駒沢オリンピック公園体育館	創作ダンス、体操、体操競技、エッサッサ、トランポリン、ハンドボール、バスケットボール、集団行動、幼児遊び、剣道、相撲、サッカー、ラグビー、スポーツの心理
地方	S57.12.20	香川県立体育館、21徳島市立体育館、22高知県立体育館、23愛媛県立体育館	
28	S58.11.11	代々木競技場第二体育館	創作ダンス、体操、体操競技、エッサッサ、フォークダンス、トランポリン、バスケットボール、集団行動、幼児遊び、ドリル
地方	S58.12.19	山口県体育館、20大田市総合体育館、21米子産業体育館、22 岡山県体育館	
29	S59.12.16	駒沢オリンピック公園体育館	創作ダンス、体操、体操競技、エッサッサ、フォークダンス、トランポリン、ハンドボール、バスケットボール、集団行動、花笠踊り、合奏、レスリング、陸上競技、アーチェリー、ウエイトリフティング、水球
地方	S59.12.23	和歌山県立体育館、24滋賀県立体育館、25京都市体育館、26大阪府立体育館、27神戸市立中央体育館	
30	S60.11.16	駒沢オリンピック公園体育館	創作ダンス、体操、体操競技、エッサッサ、フォークダンス、トランポリン、バスケットボール、集団行動、柔道、バレーボール、陸上競技、
地方	S60.11.14	川崎市体育館、22三島市体育館、23愛知県体育館、24 大垣市総合体育館、25四日市市体育館	
31	S61.11.15	駒沢オリンピック公園体育館	創作ダンス、体操、体操競技、エッサッサ、フォークダンス、トランポリン、バスケットボール、集団行動、剣道、日本舞(民)踊、バドミントン
地方	S61.11.18	新潟市体育館、19富山市体育館、20金沢市総合体育館、21福井県営体育館	
32	S62.11.12	駒沢オリンピック公園体育館	創作ダンス、体操、体操競技、エッサッサ、フォークダンス、トランポリン、ハンドボール、バスケットボール、集団行動、バレーボール、日本舞(民)踊、合気道、レスリング、ソフトボール、サッカー、ラグビー
地方	S62.12.20	茨城県武道館、21栃木県体育館、22前橋市体育館	
33	S63.11.19	駒沢オリンピック公園体育館	創作ダンス、体操、エッサッサ、トランポリン、集団行動、柔道、幼児遊び、スタッツ(組体操)、レクリエーション、ウォータースポーツ紹介、ダンスアラカルト
地方	S63.12.17	船橋市運動公園体育館、18福島県体育館、19仙台市体育館、20山形県体育館	
34	H1.11.10	駒沢オリンピック公園体育館	創作ダンス、体操、エッサッサ、フォークダンス、トランポリン、ハンドボール、空手、集団行動、少林寺拳法、合気道、レスリング、レクリエーション、ジャズダンス、エアロビクスダンス
地方	H1.9.10	岩手県営体育館、11弘前市市民体育館、12秋田県立体育館、H2.11.6道立北見体育センター、7帯広市総合体育館、8道立札幌中島体育センター、10函館市市民体育センター	

回数	期 日	会 場	演 技 種 目
35	H2.11.20	東京体育館	創作ダンス、体操、体操競技、エッサッサ、フォークダンス、トランポリン、集団行動、柔道、チアリーダー、ラクロス、一輪車、スーパーフットボール
36	H3.10.30	健志台キャンパス米本記念体育館	創作ダンス、体操、体操競技、エッサッサ、フォークダンス、トランポリン、集団行動、ソフトボール
地方	H3.11.6	沖縄県総合運動公園体育館、7奥武山体育館、9平良市総合体育	
37	H4.10.24	東京体育館	創作ダンス、体操、体操競技、エッサッサ、トランポリン、少林寺拳法、レクリエーション、フェンシング、チアリーダー、オリンピック選手紹介
地方	H4.11.9	宮崎県体育館、10鹿児島アリーナ、12熊本県体育館	
38	H5.11.7	東京体育館	創作ダンス、体操、エッサッサ、フォークダンス、トランポリン、集団行動、幼児遊び、少林寺拳法、チアリーダー、ラクロス、投げと跳ぶを考える
39	H6.11.9	駒沢オリンピック公園体育館	創作ダンス、体操、体操競技、エッサッサ、フォークダンス、トランポリン、集団行動、柔道、チアリーダー
40	H7.11.8	東京体育館	創作ダンス、体操、体操競技、エッサッサ、トランポリン、集団行動、少林寺拳法、ソフトボール、荏原体育、日体弥栄太鼓、「ゴルフ・スウィング」の解析
41	H8.11.8	国立代々木競技場 第一体育館	創作ダンス、体操、体操競技、エッサッサ、フォークダンス、トランポリン、集団行動、少林寺拳法、チアリーダー、荏原体育、バンド演奏、アルティメット
42	H9.11.16	東京体育館	創作ダンス、体操、体操競技、エッサッサ、トランポリン、集団行動、日本舞(民)踊、チアリーダー、バンド演奏、インラインスケート
43	H10.11.25	東京体育館	創作ダンス、体操、体操競技、エッサッサ、フォークダンス、トランポリン、集団行動、チアリーダー、ドイツ体操、ルールコーナー
44	H11.11.23	国立代々木競技場 第一体育館	創作ダンス、体操、体操競技、エッサッサ、トランポリン、集団行動、チアリーダー、日体弥栄太鼓、デンマーク体操、クリーン大作戦
45	H13.10.30	東京体育館	創作ダンス、体操、体操競技、エッサッサ、フォークダンス、トランポリン、集団行動、少林寺拳法、チアリーダー、アルティメット、ダブルダッチ、
地方	H13.12.20	北九州市立総合体育館、21大分県立総合体育館、22佐賀県立体育館、23長崎県立総合体育館	
46	H15.10.25	国立代々木競技場 第一体育館	創作ダンス、体操、体操競技、エッサッサ、トランポリン、集団行動、少林寺拳法、チアリーダー、伝統芸能(和太鼓)、セパタクロー
地方	H15.11.20	川崎市総合体育館、22道立総合体育センター【きたえる】、23函館市市民体育館	



◆ 2003 46th 実演会 ◆

主催 日本体育大学・日本体育大学女子短期大学

国立代々木競技場第一体育館

■期日：平成15年10月25日(土)

●開場／14:00 ●開演／16:00

演技種目	演技者	演技指導者
1. オープニング		三宅 香
2. チアリーダー	チアリーダー部	千葉 吟子
3. 武道	少林寺拳法部	楠本 恭久
4. 体操	体操部	荒木 達雄
5. 伝統芸能(和太鼓)	武道学科	三宅 香
6. トランポリン	トランポリン競技部	伊藤 直樹
7. 集団行動	学生有志	清原 伸彦
8. セパタクロー	セパタクローチーム	三宅 良輔
9. 体操競技	体操競技部	具志堅幸司
10. 創作ダンス	ダンス部	三宅 香
11. エッサッサ	学生有志(男子第一学生寮生)	八木沢 誠
12. フィナーレ		荒木 達雄

◆ 体育研究発表実演会開催の移り変わり

回数	期 日	会 場	演 技 種 目
1	S29.9.26	東京体育館	
2	S30.9.18	東京田国コロシアム	創作ダンス、体操、体操競技、フォークダンス、ハンドボール、花笠踊り、バレーボール、スタッツ(組体操)、ドリル
地方	S30.10.18	函館市内小・中学校体育館、19 函館千代台球場、20 札幌市営丸山競技場、21 札幌市営中島スポーツセンター、22 旭川市体育館、23 旭川市体育館	
3	S31.10.20	東京体育館	創作ダンス、体操、体操競技、ハンドボール、柔道
4	S32.9.22	東京体育館	創作ダンス、体操、体操競技、ハンドボール、バスケットボール、空手、花笠踊り、柔道、バレーボール、剣道、日本舞(民)踊、レスリング、相撲、集団体操
地方	S32.10.2	大垣市スポーツセンター、岐阜市民スポーツセンター、3 大阪府立体育館	
5	S33.9.28	東京体育館	創作ダンス、体操、体操競技、ハンドボール、バスケットボール、空手、花笠踊り、柔道、バレーボール、剣道、日本舞(民)踊、合唱、レスリング、陸上競技、相撲
地方	S33.10.2	大阪府立体育館、4 名古屋山体育館、11 川崎市市民体育館	
6	S34.9.26	東京体育館	
7	S35.10.15	東京体育館	創作ダンス、体操、体操競技、フォークダンス、トランポリン、バスケットボール、空手、花笠踊り、柔道、日本舞(民)踊、スタッツ(組体操)、合唱、陸上競技、アメリカンフットボール
8	S37.9.29	東京体育館	
地方	S37.11.11	山口県立体育館、12 福岡平和台球場、14 熊本県立体育館、16 大分県立体育館、県立竹田高校体育館	
9	S38.9.28	東京体育館	創作ダンス、体操、体操競技、エッサッサ、フォークダンス、トランポリン、バスケットボール、空手、花笠踊り、バレーボール、日本舞(民)踊、スタッツ(組体操)、合唱、相撲
10	S40.10.2	東京体育館	創作ダンス、体操、体操競技、エッサッサ、フォークダンス、トランポリン、ハンドボール、花笠踊り、柔道、バレーボール、剣道、日本舞(民)踊、スタッツ(組体操)、合唱、集団体操
11	S41.10.8	東京体育館	創作ダンス、体操、体操競技、エッサッサ、フォークダンス、トランポリン、ハンドボール、バスケットボール、空手、集団行動、花笠踊り、柔道、日本舞(民)踊、スタッツ(組体操)、合唱、集団体操、バドミントン
地方	S41.11.1	宮城県営スポーツセンター、2 秋田市営体育館、4 青森県立体育館、5 水沢市体育文化会館、6 山形県営体育館、7 福島県営体育館	
12	S42.10.7	東京体育館	
13	S43.9.28	東京体育館	創作ダンス、体操、体操競技、エッサッサ、フォークダンス、トランポリン、ハンドボール、空手、花笠踊り、バレーボール、剣道、スタッツ(組体操)、相撲、フェンシング

回数	期 日	会 場	演 技 種 目
14	S44.10.11	東京体育館	創作ダンス、体操、体操競技、エッサッサ、フォークダンス、トランポリン、ハンドボール、空手、花笠踊り、少林寺拳法、日本舞(民)踊、合気道、合唱、レクリエーション、アメリカンフットボール、リーダー公開
地方	S44.11.23	横浜文化会館	
15	S45.10.24	東京体育館	創作ダンス、体操、体操競技、エッサッサ、フォークダンス、トランポリン、ハンドボール、バスケットボール、花笠踊り、バレーボール、剣道、スタッツ(組体操)
地方	S45.10.27	静岡草薙総合運動場体育館、28 岐阜県民体育館、29 四日市市立体育館、三重県総合競技場体育館、30 愛知県蒲郡市体育館、31 愛知県体育館	
16	S46.10.23	代々木競技場第二体育館	創作ダンス、体操、体操競技、エッサッサ、フォークダンス、トランポリン、ハンドボール、バスケットボール、空手、花笠踊り、レスリング、リーダー公開、アーチエリ、卓球
17	S47.10.20	駒沢オリンピック公園体育館	創作ダンス、体操、体操競技、エッサッサ、フォークダンス、トランポリン、バスケットボール、空手、花笠踊り、柔道、剣道、合唱、陸上競技、トレーニング(方法)
18	S48.10.24	東京都駒沢第二体育館	創作ダンス、体操、体操競技、エッサッサ、フォークダンス、トランポリン、ハンドボール、空手、花笠踊り、幼児遊び、少林寺拳法、剣道、合気道、陸上競技、リーダー公開
19	S49.9.20	代々木競技場第二体育館	創作ダンス、体操、体操競技、エッサッサ、フォークダンス、トランポリン、バスケットボール、空手、花笠踊り、ソフトボール、トレーニング(方法)、バドミントン、荏原体育
20	S50.9.24	駒沢オリンピック公園体育館	創作ダンス、体操、体操競技、エッサッサ、フォークダンス、トランポリン、バスケットボール、空手、柔道、幼児遊び、少林寺拳法、合気道、陸上競技、ソフトボール、トレーニング(方法)
21	S51.10.22	駒沢オリンピック公園体育館	創作ダンス、体操、体操競技、エッサッサ、フォークダンス、トランポリン、バスケットボール、空手、幼児遊び、バレーボール、少林寺拳法、合気道、レスリング、トレーニング(方法)、ウエイトリフティング
22	S52.10.29	東京体育館	創作ダンス、体操、体操競技、エッサッサ、フォークダンス、トランポリン、ハンドボール、空手、幼児遊び、少林寺拳法、剣道、合気道、フェンシング、スキー、スケート
23	S53.10.21	駒沢オリンピック公園体育館	創作ダンス、体操、体操競技、エッサッサ、フォークダンス、トランポリン、空手、幼児遊び、少林寺拳法、合気道、レクリエーション、アメリカンフットボール
24	S54.10.26	代々木競技場第二体育館	創作ダンス、体操、体操競技、エッサッサ、フォークダンス、トランポリン、バスケットボール、空手、集団行動、幼児遊び、少林寺拳法、合気道、相撲、アメリカンフットボール

外村 哲也

(社会体育学科1年)

7mのジャンプ。
恐怖と快感の狭間で、
小宇宙を優雅に漂う。

トランポリンでの体験は非日常的である。日常で7mのジャンプは在り得ないし、ましてやその間にひねりを加えて3回宙返りなど出来るはずがない。しかしトランポリン選手はいとも簡単(?)にやっけてのける。外村君は今でも恐怖心があると言った。その外村君が7mの天空で観ているものは……。

ります。でも、やはり大学生活は高校とは違って新鮮です。授業科目も体育・スポーツの専門領域が並んでいて、どちらかというと理系が好きなので、「人体解剖」などの授業などは大変興味深く受講しています。現在は寮生活ですが、1年生としてやらなければならない仕事も結構あります。たまに買い物に行ったり、ビデオを観たりして息抜きをしています。

—この間の主だった競技成績について教えてくださいませんか？

外村●小学生の頃、年齢別で世界選手権に出場したことがあります。高2・高3の時には全日本選手権で3位に入賞しましたが、インターハイは両年度とも怪我で出場していません。それから、今年の4月に開催された全日本選手権の年齢別で、日体大OBでシドニー五輪選手の中田大輔さんとペアを組ませていただき、シンクロ種目で優勝しました。私の場合、特定の得意技で勝負するというのではなく、オールラウンドにハイレベルの演技をするように心がけています。

—トランポリンの醍醐味と難しさを教えてください。

外村●やはり、通常の生活では考えられない高いジャンプ、そうですね7mくらいは跳びますよ。その間に3回宙返りや2回宙返りにすべてひねりを加えた演技を合計で10個入れるわけです。トランポリンならではの醍醐味ですが、それがまた難しさでもあります。途中で体勢が崩れると立て直すことは容易ではありません。20秒間気を緩めずに演技する集中力と体力が必要です。今でも、ときどき眼が回る事があるし、もちろん恐怖心もあります。

—普段の練習について教えてください。

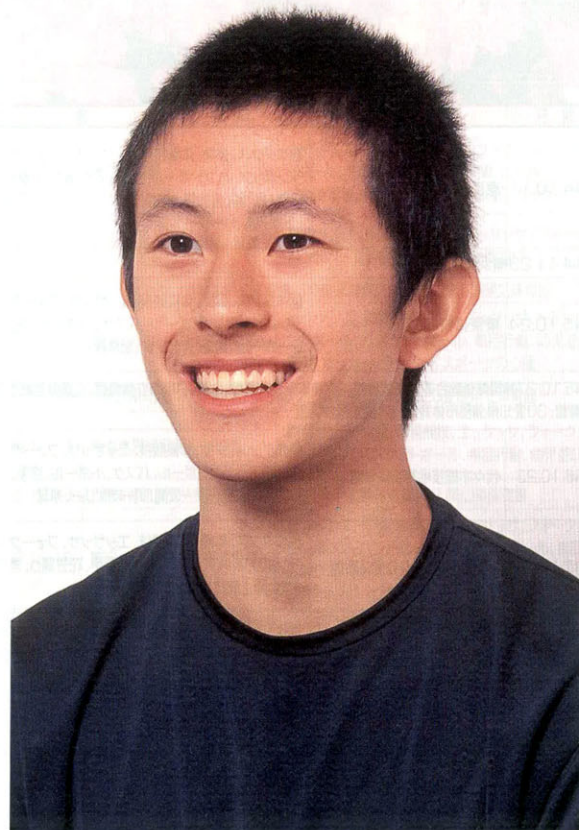
外村●第一体育館のステージ上で練習していますが、スペースに限りがあるので、部員が2時間の交代制で練習しています。OB・OG、そして高校生が参加することもあります。いろんな方と練習が出来るのは勉強になりますね。トランポリンは非常にタフなスポーツなので、トランポリンに乗

っていないときはランニングやウエイトトレーニングも積極的に取り入れています。

—それでは最後に、これからの目標を聞かせてください。

外村●今年の10月中旬にドイツで世界選手権が開催されます。私も出場しますが、この世界選手権で各国2名までのアテネオリンピック代表枠が決まります。なんとかその2つの枠を確保することが当面の目標であり、アテネに行きたいですね。そのためには、トップレベルに近づいてきた難易度に磨きをかけながら、いかに安定感のある演技が出来るかにかかっていると思います。日本でもライバルはいっぱいいます。世界に目をむけるとロシア、ドイツ、フランスを始めとして強豪選手が目白押しです。その中でも前回の五輪優勝者のロシアのアレクサンダー・ムスカレンコ選手のダイナミックな演技は高さや安定感と優雅さで群を抜いていると思います。30歳を越えていますが目標とする選手ですね。

(1月16日、東京・世田谷キャパスにて)

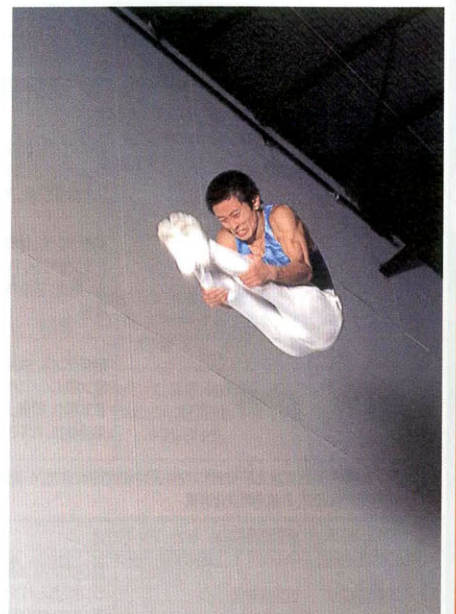


PROFILE

●そとむら・てつや●

1984年生まれ。
東京農業大学第一高等学校出身。
両親は日体大体操競技部出身。
父親は外村康二氏。(1984ロサンゼルスオリンピック体操団体と床で銅メダルを獲得)
体操競技選手に育てたいという両親の思惑をよそに、ただひたすらトランポリンを跳び続け、今年10月の世界選手権に出場決定。トランポリン界の貴公子はアテネの空を目指す。
身長164cm、体重52kg

※本誌表紙を飾る



新里 知佳野

(武道学科武道教育コース3年)

剣は心なり。 相手に無心で臨む、 まっすぐに美しい剣風。

日本の伝統である剣道。剣道は「心身の鍛錬」「剣は心なり」「礼に始まり礼に終わる」などと形容され、ストイックなまでの崇高な精神世界を形成している。昨今、興盛を極めるサッカーやニュースポーツなどの華やかさや気軽さに比べると、まさしく対極に位置しているかのような。「今」が一番充実しているという新里さんにとって、剣道の醍醐味とは……。

— 剣道を始めたのはいつ頃からで、きっかけはどのようなことだったのですか？
新里 ● 小学校の1年生から始めました。兄が宮古島にある町道場で剣道をしていたので、母に連れられて私も道場に通い、兄の稽古を観ていました。ですから、小学生になつてくると自然に剣道を習い始めたように記憶しています。中学生になつてからは剣道部に所属しましたが、あまり活発なクラブではなかったため、引き続き町道場で稽古を続け、高校に入つてからは剣道部で活動をしました。高校生活は宮古島の親元を離れての生活であり、また新しい環境下での剣道の稽古でしたが、この3年間の経験が今に結びついているのだと思っています。

— 日体大への入学は、いつ頃から決めていたのですか？
新里 ● いろいろと悩みましたが、どうせ剣道が続けるなら思いきって東京に出たいという気持ちと、日体大出身であった剣道部顧問の先生のアドバイスもあり、一般入試

を受験し、入学しました。

— 日体大に入学して、大学生活はどうでしたか？
新里 ● やはり日体大は剣道の伝統校であり、生半可な気持ちでは続けられないということを痛感しました。そして寮での集団生活、また遠く親元を離れていることもあり、正直言ってホームシックにかかった時期もありましたが、同室の先輩が親身に相談に乗ってくれました。

— 今年開催された世界剣道選手権大会に出場されたそうですね。
新里 ● 昨年、2年生の時に出場した全日本女子剣道選手権大会でベスト8になったのがきっかけで全日本の候補選手となり、何回かの強化合宿の後、今年3月に千葉県の勝浦で開催された強化訓練講習会で代表選手が発表されました。代表枠は10名ですが「選ばれたい」でも「選ばれるわけがない」という気持ちで交差し、発表される選手名を指折り数えていました。そして10本目の指を折ろうとしたとき「新里！」という名前を呼ばれ「エッ！」と叫んで左右を見回してしまいました。私以上に驚き、



そして喜んでくれたのは宮古島の母だったかもしれません。2千キロ離れた電話の向こうからの「おめでとう」の一言が、私にとって何よりの贈り物であり励みでした。そして、7月にイギリスで開催された第12回世界剣道選手権大会へ出場し、ベスト8の成績を収めることができました。

— 剣道の面白さと、難しさについて話していただけますか？
新里 ● 剣道の面白さは、小さい子どもから高齢者まで、レベルの違いを超えて剣を交えることが出来ることですね。そして少しずつ経験を積みながら、古くからの教えを技能、精神の両面で一つ一つ学んでいくことが醍醐味であり、また難しさだと思えます。「剣は心なり」と言いますが、普通だったから自然に出せる技であっても、心が乱れ荒れているときにはそのまま剣風に現れます。構えを崩さず、常にまっすぐに美しい剣風でありたい。そのことによって相手に無心で臨むことができるのだと思います。

— 最後に、当面の目標と将来の目標を聞かせていただけますか？
新里 ● 世界選手権を経験したことにより、

PROFILE

● しんざと・ちかの●

1982年沖縄県宮古島生まれ。
 沖縄県・興南高等学校出身。
 大学生としてただ一人、2003年世界剣道選手権大会に出場。準々決勝において同大会優勝の馬場選手に敗れ、ベスト8。敢闘賞受賞。
 剣道4段。得意技は中段の構えからの面。身長168.5cm



第12回世界剣道選手権大会
 写真提供・剣道時代

剣道において「今」が一番充実していると実感しています。この力をもつて始める関東インカレで存分に発揮し、ぜひ決勝では全国屈指の強豪である筑波大学と対戦したいと思っています。そして、その先に控えている全日本インカレに結び付けていきたい。将来の目標は、指導者になつて今自分が学び経験していることを子どもたちや剣道を志す多くの人に伝えていくことです。また、剣道はお隣の韓国や中国、そしてヨーロッパでも普及してきていますので、剣道の指導を通して国際交流にも貢献していきたいと考えています。

(9月16日、東京・世田谷キャンパスにて)



第12回世界剣道選手権大会 写真提供・剣道日本

加藤 廣志さん

能代工前バスケット部監督

[1960年3月体育学科卒業]

PROFILE

(かとう・ひろし)

1937年秋田県藤里町生まれ。

中学校から本格的にバスケットボールを始め、県立能代工業高校時代インターハイに出場。56年4月体育学科に入学し、バスケットボール部に所属。卒業した60年4月、保健体育教諭として母校に赴任、同時にバスケットボール部監督に就任、以来30年間同部を指導。

90年、同校教頭に就任すると同時に、監督を教え子の加藤三彦監督に禅譲。秋田県教育庁保健体育課長、同校校長を経て、98年定年退職。現在、能代山本スポーツリゾートセンター「アリナス」館長、秋田県体育協会副会長、秋田県バスケットボール協会会長。

67年埼玉国体で初優勝、以来、全国制覇33回の偉業を達成(全国高校選抜11回、インターハイ11回、国体11回)。高校三冠5回(75、76、80、83、85年)、史上最多のインターハイ7連覇(79年～85年)。秋田県スポーツ功労賞(75年)、秋田県教育功労賞(82年)受賞。著書『高さへの挑戦』(秋田魁新報社)は、チーム強化を図る指導者の必読書と言われている。



指導者には、教え子の魂に火を灯す 激しい情熱が必要だと思います。

能代工といえば、インターハイ・国体・選抜を合わせ54回の全国制覇の金字塔を打ち立て、全国の高校バスケットが目標としている学校であるが、30年もの歳月を費やしてその独自のバスケットボールのスタイルを構築し、一代で常勝の伝統を築いたのが、前監督の加藤さんである。

加藤さんが指導者を目指したのは、高校3年の時から。ケンタッキークー大学を全米大学選手権優勝に導いたアドルフ・F・ラップの本から感銘を受けたのがキッカケだという。指導者になることを夢見て入学した日体大を卒業後、加藤さんは県内でもなかなか優勝できなかった母校の監督に就任した。しかし、地方の無名チームが全国の頂点に立つまでには、試行錯誤の連続だった。全国を目指すキッカケは、監督2年目の時の東京遠征だった。この遠征を契機に、高さへ挑戦する「平面が立体を制する」考え方を発案し、現在の能代工スタイルの出発点となる「オールコートのゾーンプレス」を編み出した。「相手が得点して喜んでいる間にこちらが攻め込んでしまえ」という、攻防の切り替えの速い平面バスケットボールである。

チームを率いて8年目の67年の埼玉国体。このスタイルで初めて加藤監督は全国の頂点に駆け上がる。以後、監督を退く90年まで通算33回の全国制覇(インターハイ11回・全国高校選抜11回・国体11回)という金字塔を打ち立てた。さらに、後継者を育て、54回という記録は、恐らく、今後如何なる高校スポーツでも打ち破られることのないであろう素晴らしい偉業である。

監督在任中には、「24時間バスケットのことしか頭の中になく、田舎にいても全国制覇できるチームづくりに没頭していた」と、加藤さんは言う。しかし、勝つことを宿命づけられながらも、スポーツを通して人間教育をしていたように思う。

「指導者には、深い愛情と燃えるような激しい情熱が必要です。自分が本気であれば、彼らも真剣に応えます。深い愛情とは、一人ひとりの性格や癖、家庭環境などを把握しておき、必死になって頑張っても芽が出てこず、崖っぷちに立っている場合には、落ちてしまわないように一声かけてやりたり、元気になるまで息子として自宅で育ててやるぐらいの気持ちにならないといけません。また、自分が燃えていなければ、人の魂に火はつきません。燃えるような激しい情熱とは、子どもたちに教えてあげたくて、夜明けが待ち遠しい思いです。自分が本気になって燃え、そうした思いで接していると、その子の魂に必ず火がつく。一端、火のついた子どもは、その魂を持って将来どんな世界に進んでも、行く先々に必ず火を灯すのです」と、指導者像を力強く、ゆっくりと熱い表情で語る。「魂のバスケット」と言いたいのだろうか。ここには、優れた教育実践家としての姿も見えてくる。指導者の何が部員一人ひとりに浸透し、心を揺り動かす、高いレベルに導いたのか、分かるような気がした。

最後に、「高校3年生の時に1冊の本との出会いがあつて、その夢を追いかけてくることができた。だから、そういうものを是非見つけて自分の人生を切り開いて行つてほしい」と語ってくれた後輩へのメッセージは、バスケットに取りつかれ、一直線に夢を追いかけてきた加藤さんならではの説得力ある言葉であつた。

(9月25日、能代山本スポーツリゾートセンター「アリナス」にて)

企業スポーツの休部・廃部が続く中、企業スポーツに進むことが出来る人は限られているが、小川さんはその限られた社会人選手の一人である。彼女の勤める七十七銀行(仙台)は、「企業スポーツは社会に対する一種の誠実さ」という考えから強化育成を図り、現在、野球・陸上・バドミントンの社会人チームを有している。地域に密着する地方銀行として、スポーツを通して地域に潤いを与えることは使命の一つなのかもしれない。その努力が実り、今年、野球部は創部23年目にして都市対抗野球大会への初出場、バドミントン部は念願の1部昇格を果たした。そして彼女自身も、この秋の全日本社会人選手権女子ダブルスで、初めて3位に入った。しかし、学生時代は、華々しい成績とは無縁の選手であつたらしい。

彼女がバドミントンを始めたのは、小学校5年生の頃。「遊び感覚でやり始めたのがキッカケ」という。中学から本格的に始め、高校は県外の生徒も多かった千葉県の中央学院に入学するが、関東大会とまり。日体大入学後も、同期のほとんどがインターハイ出場組で、「初めの1ヶ月は練習にも付いていけないほど」レベルの差があつた。「やっと周りの者に勝て、インカレにも出られるようになったのは、3年生になつてから」だと言う。

そんな彼女が着実に力をつけ始め、開花したのは社会人チームに入つてから。七十七銀行へは、既に就職していた1年以上の先輩から、「シングルス選手を一人求めているんだけど…」と誘われたのが入行のキッカケという。当時、チームは日本リーグの2部にも入れず、強化を図り始めた時期だつたらしい。何故か、社会人チームに進もうとしたの?との質問に、「もう少しやってみたかったから」と言う。「練習でやったことを100%出し切れればいいのですが、今まで全部出せたことがないので…」と語るように、このまま終われないという気持ちが強かつたのかもしれない。

バドミントン部は現在、マネージャーを含め8名。全員、事務管理部事務集中課に所属し、2時まで勤務した後、3時半〜7時くらいまで銀行の体育館で練習する。指導にはNTT東日本・宮城の前監督が当たっている。また、この部では去年から、地域に貢献したいということで、練習後、全員で小・中学生に週3回教えている。毎回20名ほど集まるらしいが、こうしたボランティア活動があるからこそ、宮城県ではバドミントンが盛んに違いない。

ところで、バドミントンは、「長い試合になると2時間以上にもなる」想像以上にタフで過酷な競技である。30歳を過ぎると肉体的・精神的に続かないものらしく、現在、女子の最高齢は32歳である。彼女は現在28歳だが、「この年齢になると、現役から退く選手が多いんです。学生時代の同級生で現役を続けているのは、自分だけ。だから、バドミントンを今やれているだけで充分です」と語る。彼女にとつてバドミントンは、「生活の一部以上で、いつも一緒にいるパートナーのようなもの」に違いない。

最後に、「大学生活は4年間(2年間)しかないで、一日一日を大事に、後悔しないような学生生活を送ってほしい。日体大に入つて良かったな、と思えるようにしてほしい」と語ってくれたメッセージには、粘り強くシャトルを拾つてつないでいく彼女のブレースタイルがにじみ出ているように感じた。

(10月1日、七十七銀行事務センターにて)

5gのシャトルに自分の可能性を託し、 企業スポーツの第一線で頑張るバドミントンの華。

小川 尚子さん

株式会社 七十七銀行
事務管理部事務集中課

[1998年3月体育学科卒業]

PROFILE

(おがわ・なおこ)

1975年神奈川県生まれ。

中学校から本格的にバドミントンを始め、千葉県・私立中央学院高校時代は関東大会とまりでインターハイにも出場できなかったが、94年日体大に入学後の3年生から実力をつけ、インカレ団体戦・関東リーグ戦で優勝を経験する。才能が開花したのは七十七銀行に入行してから。03年全日本社会人選手権女子ダブルスで3位に入る。

日本ランキング:ダブルス11位、シングルス33位(03年4月現在)



大学院の紹介

01

「NITTAIDAI」
07・本号より、日本体育大学大学院の紹介をすることになりました。今回は博士後期課程設立後の本学大学院の経緯、学会活動状況を通しての活動報告、頻繁に使用される測定機器のひとつであるMRIなどを紹介し、大学院の様子を垣間見ていただければ幸いです。

1 はじめに… 大学院の博士後期課程 設立からこれまで

日本体育大学大学院体育科学研究科博士課程が平成10年4月新たに発足して3年、単科の体育大学として平成13年3月初めて博士(体育科学)の学位を授与し、名実共に前期(修士)、後期(博士)の大学院体育科学研究科博士課程が完成しました。

本大学院は、体育・スポーツに関する学術的な研究を追究し、その真理の解明を期することはもとより、その成果を実際の運動能力、競技力の向上に応用すること、一方、運動、体育科学に関する高度な知識と研究の能力を有する人材の育成を目的とします。こういった目的を踏まえ本大学院は博士課程を前期課程と後期課程に分け、それぞれ学問分野に基づいて大きくスポーツ文化・社会科学系、トレーニング科学系および健康科学・スポーツ医学系と3学系を配しています。関係者並びにみな様のご理解により現時点では、各学系の大学院生の定員を上回り、充実した教育・研究が順調に行われています。



東京・世田谷キャンパス深沢校舎7号館
が大学院の主な活動場所です

2 学会活動を 通しての大学院の 活動報告



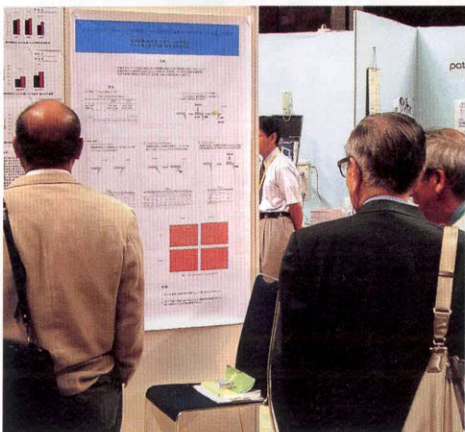
大学院生が研究活動を行っている様子です

秋は体育・スポーツ科学の分野における学会が盛んに開かれます。学会は日本国内外を問わず研究分野を共通にした研究者が日ごろの研究活動を発表し、その成果に関して評価あるいは批判を受ける場所です。大学院では学位論文のための研究活動が主になるため、学会参加および発表は大学院生にとっては欠かせないものといえます。

本学大学院からは現在国内外あわせて10以上の学会あるいは研究会に大学院生をはじめ関係者が参加しています。以下に2003年度前半に本学大学院より学会発表が行われた主な学会およびその発表数を紹介します。

〔国内学会〕

○第11回日本運動生理学会大会
(2003年8月2～3日、愛知県)



国内学会風景

〔国際学会〕

- ↓本学大学院からの発表数：3題
- 第58回日本体育学会大会
(2003年9月19～21日、静岡県)
↓本学大学院からの発表数：27題
- 第54回日本体育学会大会
(2003年9月26～28日、熊本県)
↓本学大学院からの発表数：4題(招待口演1題を含む)

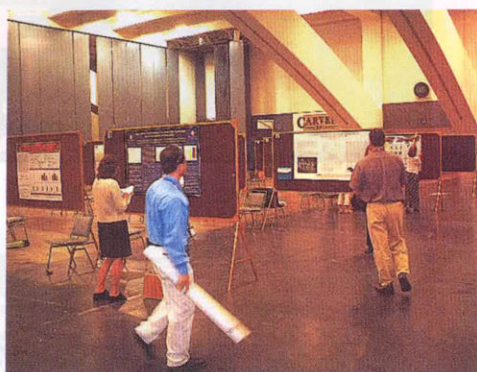
○American College of Sports Medicine

50th Annual Meeting(2003年5月28日～31日、アメリカ合衆国)
↓本学大学院からの発表数：9題

○8th ANNUAL CONGRESS EUROPEAN COLLEGE OF SPORTS SCIENCE

(2003年7月9～12日、オーストリア)
↓本学大学院からの発表数：1題

ここに紹介したのは本年度4月～9月における主な学会ですが、その他年間を通じてスポーツ史学会、日本スポーツ人類学会、日本生理学会、日本臨床スポーツ医学会、トレーニング科学研究会、日本バイオメカニ



国際学会風景



国際学会風景

クス学会、国際バイオメカニクス学会など多くの学会に参加、発表しています。
今後とも本大学院にて行われた研究活動の成果を学会等を通じて広く世に公開していくとともに、本学競技活動の強化などスポーツパフォーマンスの向上をめざし研究内容の還元もはかつていきたいと考えています。

3 シリーズ 研究施設からみた大学 院における研究活動 その① MRI

大学院では日々体育・スポーツに関わる研究活動が展開されています。このシリーズでは本学大学院での研究活動にて頻繁に使用される機器・設備を通して本学にて展開される研究活動を紹介していきたいと思えます。第一回目はMRI (Magnetic Resonance Imaging) について。

つい最近、MRI (核磁気共鳴画像) 装置の開発に貢献した2氏が今年のノーベル医学・生理学賞を受賞することが報道されました。MRIは身体に傷を付けることなく体内の様々な情報を得ることが可能な装置で、主に医療現場で用いられています。1997年3月、本学でも東京・世田谷キャンパス深沢校舎6号館にMRI装置が導入されました。本学のMRI装置は日立メデコ社のAIRISという装置で、永久磁石を用いた0.3テスラという磁場強度を持ったものです。

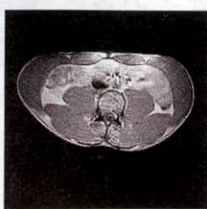
MRIには様々な利用法がありますが、本学で最も頻繁に行われているのが「筋断面積」の計測です。筋肉が発揮できる力は筋の断面積に比例するので、筋の断面積をMRIで計測することにより、筋肉というエンジンの性能(排気量)を評価できます。筋力トレーニングを継続して行くと、筋肉が肥大し、筋力も増大してきますが、トレーニング前後の筋断面積の比較を行うことにより、トレーニング効果を評価できます。また、筋肉だけでなく、関節の構造や皮下脂肪、内臓脂肪の量なども評価可能です。様々な組織の面積計測以外によく用いられるのがT

2強調と呼ばれる方法で、この方法を使うと、運動したときにどの筋肉が主に活動したのかなどが評価可能です。
ここに紹介した以外にも、実に様々な応用が可能です。大学院生等の研究で頻繁に利用されています。現在ではほぼ毎日、フル稼働しており、時間の調整に苦労するほどになっています。今後もMRIを最大限有効に利用し研究の成果をあげるとともに、スポーツ現場での競技力向上につながる研究も展開していきたいと考えています。

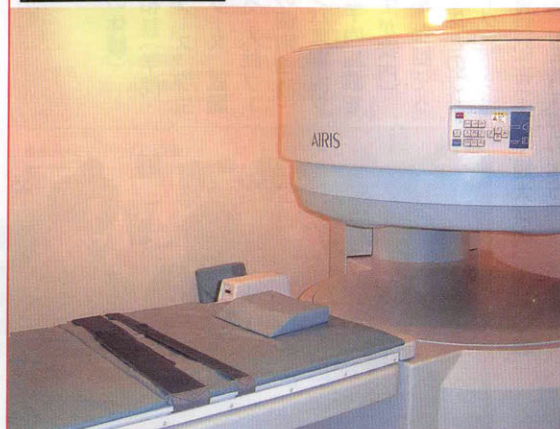
〓おわりに〓

今後は大学院生、卒業生、担当教員などの声も紹介しながら大学院の活動を伝えていく予定です。本学大学院に興味のある方、一緒に研究活動を行ってみたい方は大歓迎です。連絡方法などの詳細は本学入試広報室(TEL:03・5706・0910)まで連絡ください。

(文責:大学院研究科長室)



MRI画像:トッパススリート腰部のMRI画像。皮下脂肪が非常に薄く、筋が非常に発達している様子が分かる



MRI装置

【平成15年度在籍者数】

■日本体育大学

平成15年5月1日現在

区 分	1 年	2 年	3 年	4 年	合 計
体育学科	816 (176)	830 (206)	894 (229)	992 (257)	3,532 (868)
健康学科	175 (88)	184 (95)	179 (90)	181 (82)	719 (355)
武道学科	129 (31)	127 (28)	122 (28)	133 (32)	511 (119)
社会体育学科	175 (50)	174 (44)	207 (74)	197 (69)	753 (237)
合計	1,295 (345)	1,315 (373)	1,402 (421)	1,503 (440)	5,515 (1,579)
体育専攻科	16 (1)	—	—	—	16 (1)
大学院博士前期課程	36 (6)	40 (9)	—	—	76 (15)
大学院博士後期課程	8 (1)	7 (4)	8 (1)	—	23 (6)
合計	44 (7)	47 (13)	8 (1)	0 (0)	99 (21)

()は女子内数

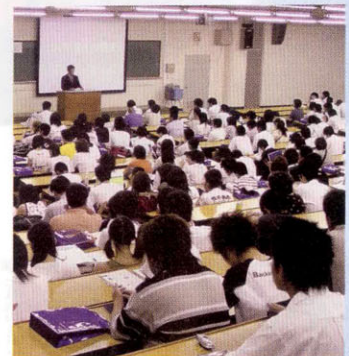
■日本体育大学女子短期大学

区 分	1 年	2 年	合 計
体 育 科	140	142	282
保 育 科	70	74	144
合 計	210	216	426

平成15年度入学式
(横浜・健志台キャンパス)

『オープンキャンパス2003』報告

入試広報室



例年多くの高校生、保護者のみなさんに参加いただいている『オープンキャンパス』を、今年は、8月2日、9月13日に横浜・健志台キャンパス、8月9日、9月27日に東京・世田谷キャンパスの合計4回開催いたしました。

この催しは、高校生・保護者を中心に本学キャンパスへ実際に足を運んでいただき、本学の教育理念、教育・研究内容、クラブ活動、入試概要等について理解を深めていただくもので、今年で15回目の開催となりました。

参加者数は、各キャンパス2回の開催で、東京・世田谷キャンパスが1,309名、横浜・健志台キャンパスが889名で、参加者総数は2,198名でした。

プログラムは次のとおりで、参加者はどのプログラム・ブースにも自由に参加できる形で行いました。

●総合ガイダンス(主催者挨拶、学科・科の紹介、入試概要、学生生活、就職状況説明)

●授業体験(体育・スポーツ系、幼児教育系)

授業の体験

●個別相談(学問・資格ブース、学生生活ブース、就職ブース、入試ブースでの個別相談)

●キャンパス案内ツアー(学内施設を在学生が案内)

●在学生と話そう(在学生とのフリートーク)

●各種資料配布(大学・短大案内、入試過去問題集、シラバス等の配布)

参加者アンケートからは「大学の様子がよくわかって、来て良かった」と好評をいただいています。今後さらに、プログラムを充実させていきたいと思います。



全国私立短期大学「体育大会」バレーボール優勝

7月29日から8月1日まで、第38回全国私立短期大学「体育大会」が東京・神奈川を会場に開催されました。この大会は、日本私立短期大学協会主催で、今年は文部科学省・東京都・川崎市教育委員会・小田原市教育委員会が後援して行われました。

バレーボール競技は、川崎市とどろぎアリーナを会場に20の短大で戦われ、本学女子短期大学は8月1日の決勝戦において見事優勝の栄冠を勝ち取りました。



第128回「日本体力医学会関東地方会」を終えて

当番幹事 大和 眞、伊藤 孝、清田 寛

第128回日本体力医学会関東地方会
は、日本体育大学、横浜・健志台キャンパスに
おいて8月9日、午後1時より当番幹事を
代表して日本体育大学、大和眞の挨拶によ
り開催されました。当日は四国から北陸地
方にかけて通過した大型台風「最大風速：40
m/sec、気圧：945.0hpa」により、
発表者や参加者（50名）への影響があったもの
の、活発な討論がなされ大会を無事に終了
することができました。

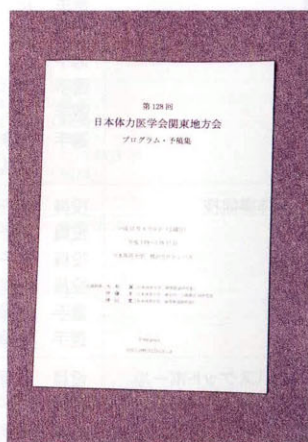
本会は、特別講演「A. 肥満の成因と分子
生物学的側面、B. 肥満症のとりえ方と身体
組成」と一般演題「セッション1：3演題、セッ
ション2：3演題、セッション3：3演題」に分
けて行われました。特別講演のA. 肥満の成
因と分子生物学的側面（東京医科大学病院、
日本体育大学大学院健康科学・スポーツ医

科学系、蒲原聖可先生）では、肥満に関する
分子レベルでの講演を中心に、B. 肥満症の
とりえ方と身体組成（日本体育大学大学院
健康科学・スポーツ医科学系、大野誠先生）
では、肥満症のとりえ方と減量指導のあり
方などについて講演して頂きました。また、
座長は中野昭一先生（日本体育大学名誉教
授）にお願いをし、最近の肥満に関する分子
生物学レベルから人間に至るまでの研究成果
やトピックスなどを交えながら、その内容を
まとめていただきました。中野先生には心よ
り感謝いたします。

また、一般演題の座長には、セッション1で
は聖マリナナ医科大学生理学教室、小林
康孝先生を、セッション2では日本体育大学
発達発達研究室、清田寛を、セッション3で
は日本体育大学衛生学・公衆衛生学研究室、

伊藤孝が務めました。小林先生には心より
感謝いたします。

この地方会が無事開催することができた
ことは、私たちにとても意義あるところで
あり、大変喜んでいく次第であります。これ
には学会の運営に携わられた学内の諸先生
や会場の受付や設置などご協力を頂いた、
学生諸君の努力の賜物であることはいうま
でもありません。また、大学当局を始め学内の
事務系職員をはじめ関係各位の絶大なるご
支援によるところであり、ここに改めて深甚
なる謝意を表する次第であります。



第12回「幼児教育講座」を終えて

保育科長 時本久美子

9月6日（土）に、「第12回 幼児教育講座」
を開催いたしました。

今年のテーマは、「親と子どもが寄り添って」
といたしました。近年、家庭内の親と子ども
の関係が難しく、子どもを産み育てること
の責任の大きさを、親がどれだけ実感してい
るだろうか、考えさせられる事件が起きて
いますが、保育者が子どもを守る立場と、親
の不安を受け止める役割があることを認識
してほしいと思います。

午前中の講演では、岡本美和子先生によ
る「心のケアと小児保健」の内容で家庭内の
「虐待」を取り上げ、その実態例や保育者と

してどう対処していくことが必要か、お話し
いただきました。また、午後、私が担当した
「運動あそび」の実技では、秋の運動会に親
子で楽しく過ごす時間を少しでも作ってほ
しいという願いから、親子あそびや親子で競
争などの内容を取り入れました。

例年7月末に開催しておりましたが、本学
授業の関係により、初めて9月の開催となり
ました。幼稚園は二期が始まり忙しい時
期のためか、参加申し込みは35名と少ない人
数ではありましたが、参加者のみなさんには
熱心に取り組んでいただき、充実した講座が
展開できました。

「日本育英会 奨学生」採用状況

日本育英会奨学金は国の育英事業で、本
学で推薦している奨学金制度の中で最も採
用数の多い奨学金です。現在、大学、大学院、
短大合わせて1,750名がこの奨学金制度
を利用しています。今年度も4月に全学生を
対象に募集を行い、360名が応募し、31
9名が新規採用されました。（詳細は左記の
表のとおり）4月の定期採用以降、追加募集
が行われることもありますので、今後希望さ
れる方は学内の掲示に注意してください。ま
た、家庭状況の急変などで急ぎ奨学金が
必要となった場合は、早めに各キャンパスの
奨学金担当（東京・世田谷キャンパス：学生課、
横浜・健志台キャンパス：教学局）までご相談
ください。

■貸与月額（平成15年度採用者実績）

		第一種（無利子）		きぼう21プラン （有利子／年利3.0％以内）
		自 宅	自宅外	
大	学	53,000	63,000	3.5、8、10万円から選択
専	攻 科	53,000	63,000	3.5、8、10万円から選択
大学院	博士後期課程	121,000		5.8、10、13万円から選択
	博士前期課程	87,000		
短	大	52,000	59,000	3.5、8、10万円から選択

■採用状況（平成15年度）

	応募人数	採用人数
大	318	281
専	4	4
大学院	博士後期課程	5
	博士前期課程	10
短	23	19
合	360	319

学生課／03-5706-0904
教学局／045-963-7900

特報!

「03ユニバーシアード大会」大邱 金・銀・銅、合計11個と健闘した本学関係者

8月21日から31日まで、「2003年夏季ユニバーシアード大会」が韓国の大邱市・慶北市で開催され、世界174カ国から参加した学生たちが11日間にわたって熱戦を繰り広げた。本学からも在学生(24名)・卒業生を含めた30名の選手と14名の役員・総勢44名が参加した。

成績は、日本はウクライナに次ぐ総合5位と奮わなかったが、日体大関係者は日本全体のメダル獲得数の2割を占める金2・銀7・銅2の合計11個を獲得するなど健闘した。

■成績「日本／日体大関係者」

- ・金メダル：13個 内本学関係者：2個2名
(内学生1個1名)
- ・銀メダル：11個 内本学関係者：7個7名
(内学生4個4名)
- ・銅メダル：20個 内本学関係者：2個2名
(内学生1個1名)

《2003年大邱夏季ユニバーシアード大会》本学関係日本代表団名簿及び成績

■日本代表選手団本部	役員 本部役員	森田 淳悟	S45年卒	
■アーチェリー	選手 リカーブ	大塚 妙子	学部1年	女子団体12位、女子個人1回戦敗退
■サッカー	選手 選手 選手	田代久美子 大堀 幸恵 近賀ゆかり	H15年卒 学部4年 学部1年	銀メダル 銀メダル 銀メダル
■柔道	選手	小川 武志	H14年卒	団体戦銀メダル、60kg級金メダル
■水泳	役員 水球ヘッドコーチ 選手 水球 選手 // 選手 // 選手 // 選手 // 選手 // 選手 // 選手 背泳ぎ 選手 メドレーリレー	大本 洋嗣 江口 朝永 高坂 昂 小林 浩司 塩田 義法 長沼 敦 大島 仁 佐藤 太一 中村 礼子	H5年院卒 学部4年 学部3年 学部3年 学部3年 学部3年 学部2年 H15年卒 学部3年	5位 // // // // // // 50m7位、100m銀メダル、200m金メダル 4×100m銅メダル
■体操競技	役員 男子監督 役員 女子監督 役員 男子コーチ 役員 総務 選手 体操競技 選手 体操競技	佐久間裕司 岡村 輝一 立花 泰則 佐藤 百合子 田原 直哉 萩山 瞳	S57年卒 S46年卒 S63年院卒 S61年卒 H15年卒 学部2年	団体総合銅メダル、個人総合12位 団体総合5位
■バスケットボール	役員 監督 役員 コーチ 役員 総務 選手 選手 選手 選手 選手 選手 選手 選手 選手	佐藤 久夫 木村 和宏 峰尾 友行 木下 博之 鶴澤 潤 今 美春 玉城 昌子 佐藤 濯 野田 裕子 松尾 香奈 市野 育代	S43年卒 S62年卒 学部4年 H14年卒 学部4年 学部4年 学部4年 学部3年 学部2年 学部2年 学部1年	15位 15位 12位 12位 15位 12位 12位 12位
■バレーボール	役員 チームリーダー 役員 監督 役員 トレーナー 役員 技術スタッフ 選手 選手 選手	成田 明彦 坂口 憲政 星野句里子 川之上 豊 盛重 龍 荒海 陽子 後藤 靖	S42年卒 S44年卒 H8年卒 S53年卒 H15年卒 学部4年 学部4年	銀メダル 9位 銀メダル
■フェンシング	選手 フルーレ 選手 フルーレ	中川 規子 見須 理恵	学部4年 学部3年	団体7位、個人15位 団体7位、個人30位
■陸上競技	役員 コーチ 選手 短距離 選手 短距離	石井 隆士 堀籠 佳宏 田島 宣弘	S52年卒 H15年卒 学部4年	400m二次予選敗退、4×400mリレー4位 100m4位

03 【上半期 クラブの主な大会成績】

クラブ名	大会名	結果	氏名
■アーチェリー	全日本学生王座決定戦 関東学生個人選手権 全日本学生個人選手権	男子 準優勝 女子 準優勝 男子 優勝 男子 準優勝 女子 優勝 女子 準優勝	前本卓 大島崇 櫻本静香 寺田春菜
■ウエイトリフティング	全日本選手権	男子 56キロ級 準優勝 男子 56キロ級 3位 女子 53キロ級 3位 女子 58キロ級 準優勝 女子 63キロ級 優勝 (187.5キロ=ジュニア日本新) 女子 63キロ級 3位 女子 69キロ級 優勝 女子 69キロ級 準優勝 女子 75キロ級 優勝 (217.5キロ=日本タイ)	山田政晴 岡田泰幸 佐野美奈 川上知子 渡慶次雅子 塩見佳世 宮城寿子 高嶺海帆 今鉢一恵
■カヌー	世界ジュニアカヌー選手権	男子 カヤックペア500m 14位	日野嵩之
■空手	関東学生空手道選手権	男子 組手 準優勝	本村寿規
■剣道	関東学生選手権 世界剣道選手権大会	男子 個人 優勝 女子 ベスト8 (敢闘賞)	古澤伸晃 新里知佳野
■ゴルフ	関東女子大学対抗戦 全日本大学対抗戦 日本アマチュア選手権 富士ゼロックス日米大学ゴルフ選手権 関東学生ゴルフ選手権 全米アマチュア選手権 日本学生選手権 トビーカップ日米大学対抗選手権	女子 準優勝 女子 3位 男子 優勝 男子 優勝 男子 3位 男子 第2日 199位 男子 優勝 男子 団体 4位 男子 個人 2位 女子 団体 5位	甲斐慎太郎 甲斐慎太郎 甲斐慎太郎 金澤健太郎 甲斐慎太郎 甲斐慎太郎
■柔道	全日本ジュニア	男子 66キロ級 優勝	金子智
■少林寺拳法	関東学生少林寺拳法大会	男子 3段以上 最優秀賞 男女 有段 最優秀賞 2段以上 最優秀賞	田中由喜、増井友哉 二本塚磨、清田麻衣 川名由美子、高橋鈴枝
■水泳 (競泳)	日本選手権 欧州グランプリ・ローマ大会 世界水泳	男子 50m平泳ぎ 準決勝 1位 (27秒99=日本新) 男子 50m平泳ぎ 1位 男子 100m平泳ぎ 準決勝 1位 (1分0秒07=日本新) 男子 100m平泳ぎ 1位 男子 200m平泳ぎ 1位 男子 1500m自由形 2位 女子 100m背泳ぎ 2位 女子 200m背泳ぎ 3位 男子 100m平泳ぎ 1位 男子 200m平泳ぎ 1位 女子 100m背泳ぎ 1位 女子 200m背泳ぎ 2位 男子 100m平泳ぎ 1位 (59秒78=世界新記録) 男子 200m平泳ぎ 1位 (2分9秒42=世界新記録) 男子 400メートルメドレーリレー決勝 3位日本 (3分36秒12=日本新) 女子 100m背泳ぎ準決勝 5位 女子 四百メートルメドレーリレー予選2組 2位日本 (決勝進出) 男子 400m自由形 1位 (2名) 4分1秒02 (大会新) 女子 200m背泳ぎ 1位 女子 学校対抗 1位 (6連覇)	北島康介 北島康介 北島康介 北島康介 北島康介 井上優 中村礼子 中村礼子 北島康介 北島康介 中村礼子 中村礼子 北島康介 北島康介 中村礼子 中村礼子 井上優、櫻井裕司 中村礼子
■水泳 (水球)	日本選手権 全国女子競技大会 学生リーグ戦	男子 優勝 (2年ぶり26度目) 女子 優勝 (4年ぶり9度目) 男子 優勝 女子 優勝	
■水泳 (飛込)	世界水泳 日本選手権	女子 1m飛板飛込予選 15位 女子 3m飛板飛込予選 19位 女子 3m飛板飛込 優勝 女子 3mシンクロ 準優勝 女子 3mシンクロ 3位 女子 1m飛板飛込 優勝	西井亮子 (職員) 西井亮子 (職員) 西井亮子 (職員) 西井亮子 (職員) 片平真貴、三河麻衣子 西井亮子 (職員)
■スキー	サマーコンバインド大会	男子 3位	青木純平
■相撲	全国選抜大学・実業団刈谷大会	男子 個人 2位	大西雅経
■ソフトテニス	関東オープン大会 全日本大学選抜王座決定戦 東日本大学対抗大会	一般女子 準優勝 優勝 (3年連続9度目) 準優勝 優勝 (5年連続17度目) ダブルス 準優勝	濱中洋美・逢野祐子
■ソフトボール	全日本選手権 全日本大学選手権 東日本学生選手権	男子 優勝 (4年連続26度目) 男子 団体 優勝 男子 個人総合 優勝 女子 団体 準優勝 男子 団体総合 優勝 男子 種目別 ゆか 優勝 男子 種目別 あん馬 優勝 男子 種目別 鉄棒 優勝 女子 団体総合 3位	濱中洋美・逢野祐子 桑原俊 中瀬卓也 藤田上総 仲里隆太
■トライアスロン	日本学生選手権	男子 個人 2位 女子 団体 3位	青島直道
■軟式野球	全日本大学女子選手権	女子 優勝 (2年連続8度目) 女子 3位 (短大)	
■バスケットボール	日本女子学生選抜 関東女子学生選手権 関東学生選手権	優勝 優勝 (3年連続26度目) シングルス 優勝 シングルス 準優勝 ダブルス 準優勝 団体 準優勝	劉志遠 橋本麻衣子 宇津早也香、小森美希
■ハンドボール	東日本学生選手権	出場	宮崎大輔
■フェンシング	アテネ五輪アジア予選 関東学生リーグ 日本学生王座決定戦	男子 優勝 女子 優勝 フルーレ 優勝	
■ボート	全日本大学選手権	男子 かじなしクォドルブル 1位 男子 かじなしフォア 1位	
■野球	首都大学野球 女子野球世界選手権	ベストナイン 三塁手 女子 優勝日本 代表メンバー	神貴行 川保麻弥
■陸上競技	関東学生対抗 日本選手権 日本ジュニア選手権 陸上日本学生対抗 世界陸上選手権	女子 1万メートル 1位 女子 5千メートル 1位 男子 棒高跳び 2位 男子 棒高跳び 1位 男子 100メートル 1位 男子 棒高跳び 予選 5m20	平田裕美 平田裕美 小林史明 森部雅文 田島宣弘 小林史明
■レスリング	全日本選抜選手権 アジア選手権 フリースタイル世界選手権 全日本ジュニア選手権 全日本学生選手権	男子 フリースタイル66キロ級 優勝 男子 フリースタイル66キロ級 準優勝 男子 66キロ級 3位 (04アテネ五輪内定) 男子 グレコローマスタイル60キロ級 優勝 男子 グレコローマスタイル120キロ級 優勝 男子 グレコローマン 74キロ級 優勝 男子 グレコローマン 84キロ級 優勝 男子 フリースタイル 55キロ級 優勝 男子 フリースタイル 60キロ級 優勝 男子 フリースタイル 96キロ級 優勝	池松和彦 (助手) 池松和彦 (助手) 池松和彦 (助手) 福岡道元 後藤志勝 子川亮介 山本悟 清水聖志人 小島豪臣 森山政秀

I N F O R M A T I O N dot.NITTAIDAI

【NITTAIDAI(ニッタイ大)】

発行日●2003年10月25日 発行●日本体育大学／日本体育大学女子短期大学 広報委員会 TEL 03-5706-0921 FAX 03-5706-0949 <http://www.nittai.ac.jp/> 制作協力●(株)図書出版

■学年暦 (平成15年・2003年度下半期)

月	日(曜日)	行事
10	6(月) 6(月)～17(金) 25(土) 30(木) 31(金)	後学期授業開始 ホームルーム期間(成績ガイダンス含む) 体育研究発表実演会(東京大会) 休業日(11/24の振替) 日体フェスティバル準備日
11	1(土)～3(月) 4(火) 5(水) 19(水)～24(月) 24(月・祝)	日体フェスティバル(横浜・健志台キャンパス) 休業日(11/2・3の振替) 体育研究発表実演会(北海道大会) 通常授業実施(10/30に振替)
12	20(土)～24(水) 25(木)～29(月) 22(月) 24(水)～1/5(月)	大学 スキー理論・実習(社会体育学科2年) (ニセコ) 大学 スキー指導実習(体育・健康・武道学科2年) (1団ニセコ) 短大 スキー実習(1年) (1団ニセコ) 12月授業終了 冬季休業
平成16年 (2004) 1	6(火) 20(火)～23(金) 23(金) 24(土)～2/10(火) 26(月)～2/14(土) 31(土)	1月授業開始 後学期定期試験期間 後学期授業終了(試験を含む) 補講・追試験・再試験期間 短大 教育実習1(保育科1年) 入学試験準備(関係者以外学内立入禁止)
2	1(日)～5(木) 11(水)～20(金) 16(月)～20(金) 11(水)～22(日) 23(月)～26(木) 12(木)～25(水) 19(木)～21(土)	平成16年度入学試験 大学 スキー指導実習(体育・健康・武道学科2年) (2・3団志賀) 短大 スキー実習(1年) (2団志賀) 大学 スケート指導実習(体育・健康・武道学科3年) (富士急ハイランド) 短大 スケート実習(2年) (富士急ハイランド) 大学 スケート理論・実習(社会体育学科3年) (富士急ハイランド) 短大 スポーツ現場実習(体育科生涯スポーツコース1年) 介護等体験事前指導講習会 第1・2回 (体育・武道学科2年健康・社会体育学科1年)
3	1(月)～5(金) 10(水) 11(木)～ 中旬 11(木)～21(日)	ホームルーム期間(成績ガイダンス含む) (全学年) 在学生履修申告手続期間(大学1～3年・短大1年) 卒業式(東京・世田谷キャンパス) 春季休業 短大 国際交流実習(体育科生涯スポーツコース1年) (アメリカ) 伝統文化交流実習、外国語実践実習(武道学科3年) (オーストラリア)

■平成16年度入試日程 お問い合わせ先／入試広報室 TEL03-5706-0910

募集区分	願書受付	試験日	合否(合格)発表
《学部》 推薦入試Ⅰ期 推薦入試Ⅱ期 一般入試 帰国子女特別選抜 研究生・科目等履修生・聴講生 編入学	11/1～11/7 12/4～12/6 12/18～1/13 11/1～11/7 3/8・11 12/18～1/9	11/30 12/14 2/2・3 2/4・5 11/30 3/16 2/1	12/4 12/16 2/11 12/4 3/18 2/11
《大学院》 博士前期課程Ⅱ期 博士後期課程 研究生・科目等履修生	2/9～2/13 1/20～1/23 3/6～3/11	2/28・29 2/18 3/16	3/1 2/20 3/18
《専攻科》	3/3～3/8	3/16	3/18
《短大》 推薦入試 一般入試 帰国子女特別選抜 科目等履修生・聴講生	11/1～11/7 12/18～1/13 11/1～11/7 3/8・11	11/30 2/1 11/30 3/16	12/4 2/11 12/4 3/18

※博士前期課程Ⅰ期は日程終了

■平成15年度就職支援講座

お問い合わせ先／就職課TEL.03-5706-0905
平成15年10月以降、世田谷キャンパス(世)、健志台キャンパス(健)で実施されるもの

公務員試験対策講座 公務員採用試験対策講座を 90分23コマ(2週間程)	10/27(月)～(健) 11/21(金)～(世)
公務員採用説明会 警察官、消防官、自衛隊の採用 担当者による、採用状況、採用 試験におけるアドバイス講座	11/26(水)(世・健) 11/27(木)(世・健) 11/28(金)(世・健)
教員採用試験対策講座 OB教員による具体的な集団 面接、個人面接模擬授業等ア ドバイス講座	12/1(月)(世) 12/2(火)(健)
養護教諭採用試験対策 講座 OB教員による採用試験に関 するアドバイス講座	12/3(水)(世)
企業・公務員を対象とし た就職活動講座 就職アナリストによる具体的 面接等アドバイス講座	1/6・13(月)(世) 1/7・14(月)(健)
学内合同企業説明会 企業採用担当者による企業の 業務内容、採用状況等の説明 会。企業ごとにブースを設け実施	1/17(土)(世)
教員採用模擬試験	2/12(木)(世) 2/19(木)(健)
就職活動1日体験 筆記試験(一般常識・SPI) エントリーシート、面接、一連の 流れを模擬体験	2/9(月)(世) 2/10(火)(健)
公務員採用模擬試験	2/13(金)(世) 2/20(金)(健)

【編集後記】2年に一度の「体育研究発表実演会」、通称“実演会”は、今年の開催で46回を数える本学の伝統行事です。今回の特集にその歴史をまとめてみると、多くの卒業生に懐かしい思い出を感じていただけたのではないのでしょうか。

毎回この実演会を楽しみに多くの保護者の方がご来場されています。特に地方から東京に子どもを送り出し、日頃の様子さえも分からないことも多いなかで、懸命に演技する我が子の姿を目の前にすると感動で身動きできなくなる方もいるようです。その感動は今年、旭川・札幌・函館会場で繰り広げられ、北海道のみならずにも“日体大”を覗いていただきます。

11月1日から3日間、横浜・健志台キャンパスにおいて「日体フェスティバル03」も開催されます。日体パワーを集結させ素晴らしい祭典にしましょう。